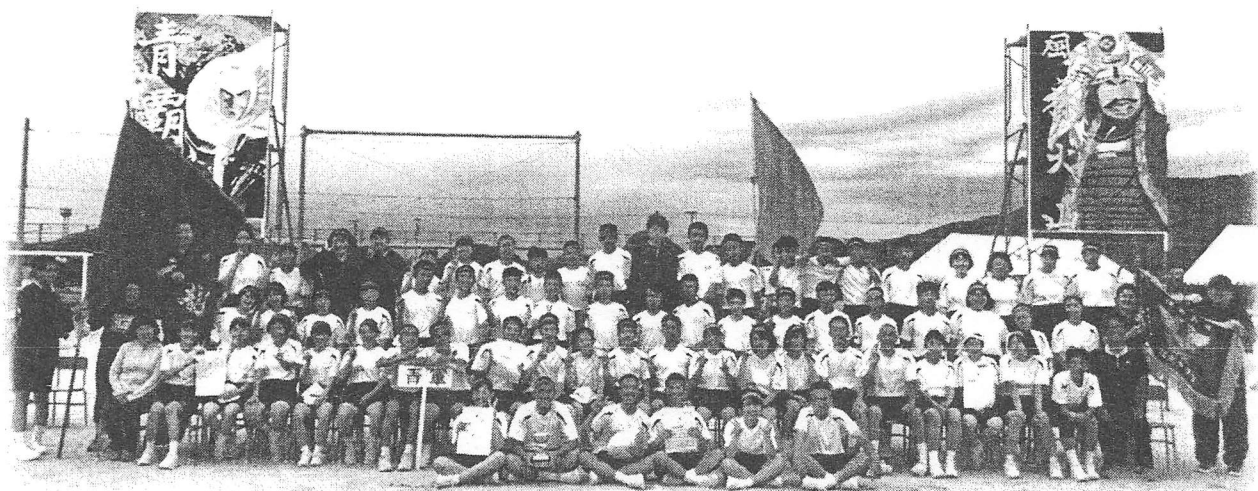


令和元・2年度 文部科学省・佐賀県教育委員会

「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」

道徳教育研究発表会（1年次）

道徳学習指導案



令和2年1月31日（金）

江北町立江北中学校

第 1 学年 2 組 道徳 科学 学習 指導 案

生徒数 29名

指導者 T1 教諭 小柳 久美子

T2 教諭 森岡 伸彦

1 主題名 だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して 【C- (10) 公德心】

2 教材名 「ごみ箱をもっと増やして」(新しい道徳1 東京書籍)

3 主題の設定理由

○ねらいとする価値について

人間は、さまざまな集団に属しながら生活を送っている。社会生活において、ときに社会の秩序を乱すことがあるが、これは自分本位の考え方や、公德心の欠如によることが大きい。

公德心とは、社会の中で守るべき正しい行いを大切にしようとする気持ちである。これは、単に主観的・心情的に考えて理解できるものではない。自分勝手な振舞いとそれが引き起こす結果を冷静に考えることで、初めて理解できるようになる。ごみ箱の問題を通して、生徒一人一人が社会全体に目を向け、互いに安心して生活できる、よりよい社会を実現しようとする態度を養いたい。

○生徒の実態について

本学級の生徒は、12月に行った事前のアンケートで、「日頃から周囲に目を向け、正しい行いをしようと心がけている」生徒の割合は89%と規範意識は高い。しかし、自分さえよければという考えに陥り、周囲の状況を考えない「自己中心的な行動を取ってしまうことがある」と45%の生徒が答えており、他者への気遣いに欠ける言動をとってしまう生徒も半数近くいる。

そこで、だれもが気持ちよく過ごせる社会を実現するために、一人一人が社会全体に目を向け、自分がどうあるべきかを考えることは、今後の中学校生活の充実につながると考える。

○教材について

本教材は新聞への投稿と、それに対する3つの意見で構成されている。投稿者は短期留学をした米国にはごみ箱が多かったが、日本では少なく不便に感じている。ごみを持ち帰る啓発ポスターも目にするが、草むらなど人目につかないところには、ごみが捨てられていることもある。このことからごみ箱をもっと増やしたほうがよいと投稿者は述べている。この投書に対して、「観光名所や公園には設置してほしい」、「ごみ箱の完全撤去を望む」、「環境を守るためにごみは持ち帰ろう」という3つの意見が寄せられた。

これらの意見を通して、だれもが気持ちよく過ごせる社会の実現に向けて、自分が社会の一員としてどうあるべきかを考えることができる教材である。

○指導について

本時の導入では、本校で行われたボランティア活動について、その意義や事後の気持ちについて尋ね、社会生活を意識させたい。

展開では、ごみ箱に関する投稿者を含めた4つの意見の立場と理由を明示し、その上で自分の立場と理由を考えさせる。その後、自分の立場を黒板の心のものさしに表示させ、クラスメートの立場を周知させる。互いの立場を理解した上で意見を交流させる。交流を通して、互いの立場と理由を知ること、自分の考えを深め、広げさせたい。ごみ箱について寄せられた4つの意見の立場は違うが、どの意見もよりよい社会をつくる思いは変わらないということに気づかせたい。それを基にして、だれもが気持ちよく過ごせる社会を想定させ、その社会の実現に向けて、自分が心がけたいことについて考え、意識させることで本時のねらいに迫りたい。

終末では、これまでの自分を振り返らせ、よりよい社会を築くことに対して多面的、多角的に自分の行動を見つめ直させたい。

4 本時のねらい

ごみ箱の設置について考えることを通して、社会の秩序と規律を守ることの大切さに気づき、よりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

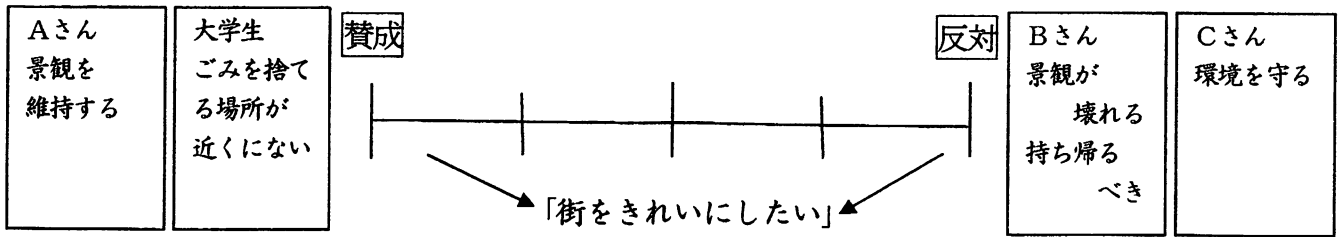
5 ねらいに迫るための指導の重点

- ① テーマ発問「だれもが気持ちよく過ごせる社会にするためにあなたが心がけたいことは何ですか」は主題に迫るものになっていたか。
- ② 対話活動は、生徒が主体的に活動できるものになっていたか。

6 展開

過程	学習活動	主な発問 (○) と予想される反応 (・)	・教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見 つ め る つ か む	1 江北中のボランティア活動の写真を 見ること 2 投稿者の意見も含め、4つの意見を知る。	○ボランティア活動をした後の気持ちは どのような気持ちでしたか。 ・すっきりした。 ・街がきれいになって嬉しかった。 ○4人の意見は、賛成ですか。反対ですか。 その理由まで考えよう。 ・大学生は賛成 ごみを捨てる場所が近く がない。 ・Aさんは賛成 景観を維持する。 ・Bさんは反対 景観が壊れる。持ち帰る べき。 ・Cさんは反対 環境を守る。	・生徒会の活動の様子を見て、ごみ箱 の問題につなげる。 ・T2が範読する。賛成か反対かの立 場を考えさせながらその理由の所に線 を引かせる。
広 げ る ・ 深 め る 』	3 自分の立場と理由を 知る。 (1) 心のものさしに自分 の考えを意思表示す る。 (2) 多くの人と意見を交 流する。 (3) 交流を通して、再度自 分の考えを振り返る。	○日本のごみ箱を増やすことについて賛 成か、反対か。立場を表し、その理由も考 えよう。 ・賛成 ごみがあるとすぐに捨てられる。 ・反対 ごみが街に増えてしまう。 ○旅行学習をして、多くの人と意見を交流 しましょう。 ○友達との交流を通して、再度自分の立場 を示し、その理由をまとめてみよう。 ・賛成 (反対) より変わった。・・・だ から。 ・変わらなかった。・・・だから。	・机間指導を行い、声をかける。 (T1、T2) ・ワークシートの心のものさしに自分 の立場を示し、黒板にネームカードを 貼りに行かせる。 ・最初は、ペアで意見を交流させ、そ の後は1対1で行わせる。3人以上の 生徒と交流させる。積極的に交流がで きているか様子を見ながら、状況に応 じて教師が促す。 ・机間指導をして、生徒の考えを把握 し、何人かに発表させる。 ・どちらの立場でも、気持ちよく過 せる社会の実現に向けた意見であるこ とは変わらないということに気づかせ ることで、社会全体のことについて考 えていくように広げる。
見 つ め 直 す	4 よりよい社会につい て考える。 5 よりよい社会にする ために心がけたいこと を考える。	○私たちが、気持ちよく過ごせる社会はど んな社会ですか。 ・住みやすい社会 ・快適な社会 ・いやな思いをしない社会 ・きれいな社会 ○だれもが気持ちよく過ごせる社会にす るためにあなたが心がけたいことは何で すか。 ・ごみがあれば拾う。 ・きまりを守って生活する。 ・公共物を大切に する。 ・誰とでも協力する。	・生徒から意見が出にくい時には、T 2が例を1つあげ、ペアで意見を交流 させる。生徒に意見を聞き、たくさん のキーワードを出させる。数枚の画像 を見せ、気持ちよく過ごせる社会とは どのような社会か気づかせる。 ・ワークシートに記入させる。最初に ペアで意見を交流させてから、何人か に発表させる。
			街の中にごみ箱を増やすかどうかについ ての意見交流を通して、よりよい社会を築 くことについて多面的、多角的に考え、自 分がどうあるべきかを考えることができる。

第27回道徳「ごみ箱をもっと増やして」



だれもが気持ちよく過ごせる社会

いじめがない社会 環境のことを考えられる社会 人が人に優しい社会 犯罪のない社会



あなたが心がけたいこと

ごみがあれば拾う きまりを守って生活する 協力しあう 自己中心的な行動をしない 相手のことを考える

【 Memo 】

ごみ箱をもっと増やして

1 年 組 号 氏名 _____

・日本のごみ箱を増やすことに賛成か。反対か。下の線上に自分の立場を印（○）で表し、理由も考えよう。

賛成		反対
----	--	----

理由

・友達との交流を通して、今の自分の立場を表し、その理由をまとめてみよう。

賛成		反対
----	--	----

第2学年3組道徳科 学習指導案

生徒数 24名

指導者 T1 教諭 重松 健太

T2 教諭 井上 三智子

1 主題名 人間の強さ・気高さ 【D- (22) よりよく生きる喜び】

2 教材名 「本当の私」 (新しい道徳2 東京書籍)

3 主題の設定理由

○ねらいとする価値について

人間は誰でも、自分に自信がもてなかったり、劣等感に悩んだりすることがある。誰の心の中にも弱さや醜さがあり、時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもある。その一方で、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたとき、人間として生きる喜びに気づくことができる。

思春期のこの時期に誰もがもつ人間の弱さや醜さに気づいて、それらを克服して気高く生き、将来に希望をもって喜びのある生き方を見いだそうとする心を育むことは大変意義深いことである。

○生徒の実態について

本学級の生徒は、12月に行った道徳的価値の意識調査における「自分には心の弱さがありますか」という質問に対し、58%が「ある」、8%が「ない」、34%が「わからない」と答えている。あると答えた理由としては、「勉強や部活などで失敗したときに、なかなか切り替えることができないから」がほとんどであった。また、心の弱さを感じた上で、「これからの生活をどうしていきたいか」という質問には、漠然としたものや無回答が多かった。エイミーの生き方から、心の弱さに打ち勝とうとし、どうすれば誇り高く、よりよい生き方をすることができるかを、中学生の時期に学ぶ意義は大きいと考える。

○教材について

本教材の主人公エイミーは、幼いころからの夢である陸上世界選手権での金メダルを獲得したが、その後以前から服用していたサプリメントがドーピング検査に引っかかる疑いがあることを知る。そこで薬に頼らず、次こそは実力で金メダルを獲得できるように練習に臨む。しかし、思うように成果が出ず、けがも負ってしまう。その時にA社の薬は、ドーピング検査をかわいくくれることを聞く。一度はもう薬には手を出さないことを決めたが、結局薬に手を出してしまい、次の大会でも金メダルを獲得することになる。

ドーピングの力で金メダルを獲得したことに後悔し、これまで獲得した全ての賞金と金メダルを返還したエイミーの姿を通して、どうすれば自分に恥じない生き方ができるのかについて考えを深めることができると考える。人間の弱さとそれを克服する強さの両面を考えさせるという視点で教材を活用したい。

○指導について

授業にあたっては、朝読書の時間を使って事前に教材を範読しておく。このときに、ドーピングを使用した時に起こる体の変化、なぜ禁止されているのかについての説明をしておく。

導入部分ではドーピングと分かった上で、再びA社の薬に手を出してしまったエイミーの心情について考えることで、誰もが心の中に弱さをもっていることを共感させ、自分の問題として考えていこうとする意識をもたせたい。

展開部分では、生徒が状況を把握しやすいように挿絵を使って、何が問題になっているかの確認をする。エイミーがドーピングを告白する前の心情を、心のもものさしを用いて表現させる。心のもものさしやネームカードを使わせたり意見交流をさせたりして、互いの理解や考えの共通点を確認し、共感させるだけでなく、互いの相違点を知ることによって多様な考えに触れさせる。中心発問では、レイチェルのセリフにある「大切なもの」について考えさせる。次に班で交流活動を行い、人間誰もが弱さ、醜さをもっているながらも人として自分に恥じない生き方をしようとしていること、そしてそれを乗り越えようとする気高さもあることに気づかせたい。他の生徒の意見を青ペンで記入させたり、自分の考えと比較させたりすることで生徒の思考を少しずつ深めていき、本時のねらいに迫りたい。

終末部分では、これからの日常生活で意識して生活していきたいことを記述させることで、自分の生き方について考え、より良く生きようとする気持ちを高めたい。

4 本時のねらい

エイミーの生き方から、自分に恥じない誇り高い生き方をするために、弱い心を克服しようとする心情を養う。

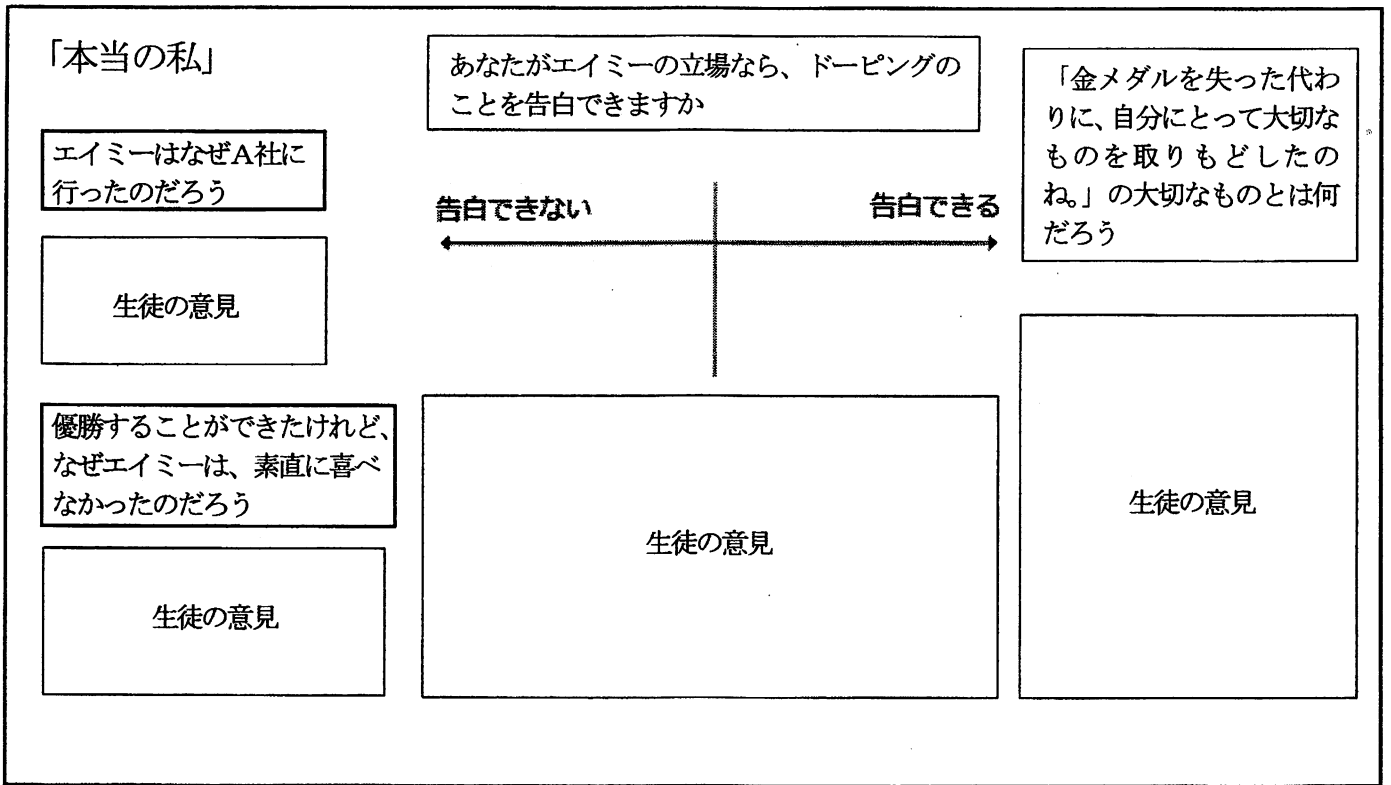
5 ねらいに迫るための指導の重点

- ① 中心発問レイチェルが言った「大切なものとは何だろう」は主題に迫るものになっていたか。
- ② 心のもさしやネームカードを使った交流や中心発問での対話活動が主体的なものであったか。

6 展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	・教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見 つ め る	1 エイミーの心情について考える。	○エイミーはなぜA社に行ったのだろう。 ・努力しても成果が出なかったから。 ・もう一度栄冠を手に入れたかったから。	・薬物には手を出さないと心に決めたが、再び薬物に頼ってしまったエイミーの心の弱い部分について触れさせる。
つ か む		○優勝することができたけれど、なぜエイミーは、素直に喜べなかったのだろう。 ・実力で勝ち取った金メダルではない。 ・ドーピングをしたことが気になる。	・目標の金メダルを勝ち取ることができたが、ドーピングをしたことにより、後悔の思いが出てきたことを押さえる。 ・なぜ「ありがとう」とさえ言えなかったのだろう。【補充発問】
広 げ る ・ 深 め る	2 エイミーの立場となつて考える。 【ワークシートに心のもさしの様子を表す】 【交流活動を行う(旅行学習)】	○あなたがエイミーの立場なら、ドーピングのことを告白できますか。 【告白できる】 ・自分をごまかすようなことはしたくない。 ・仲間にあわせる顔がない。 【告白できない】 ・地位や名誉を失うことが不安。 ・自分が言わないとばれないだろう。 〈問い返しの質問〉 ○真実を告白すると、非難を浴びて辛くないか。 ○告白しないと、ずっと不安が消えず、苦しさが続かないか。	・交流活動で、自分の意見を自信をもって発表できるように、キーワードとなる部分に線を引く。(T1、T2) ・心のもさしを活用し、自分が選んだ行動の場所にネームプレートを貼らせ、全員の意見を可視化する。 ・旅行学習(生徒が席を離れ、友達の意見を自由に聞いて回る活動)を取り入れ、多くの友達と意見交換させ、自分の考えを深めさせる。 ・旅行学習中に、生徒が葛藤することできるように、問い返しの発問を行う。(T1、T2)
見 つ め 直 す	3 レイチェルが言った「本当に大切なもの」について考える。 【4人のグループで交流活動を行う】	○「金メダルを失った代わりに、自分にとって大切なものを取りもどしたのね。」の大切なものとは何だろう。 ・自分に正直になること ・人としての誇りをもって生きていくこと ・自分に嘘をつかず、正直に生きていくこと	・エイミーの心に触れることで、これからの自分自身の行動につながることに気付かせる。 ・交流活動で、自分の意見を自信をもって発表できるように、キーワードとなる部分に線を引く。(T1、T2) ・T2による説話の後に振り返りシートを記入させる。
	4 感想や話し合いを通して考えたこと、感じたことを振り返りシートにまとめる。	○自分が考えたことや感じたことを、振り返りシートに書こう。	人間には自らの弱さを克服する強さがあることを理解し、誇りをもって気高く生きていこうとする気持ちをもつ。

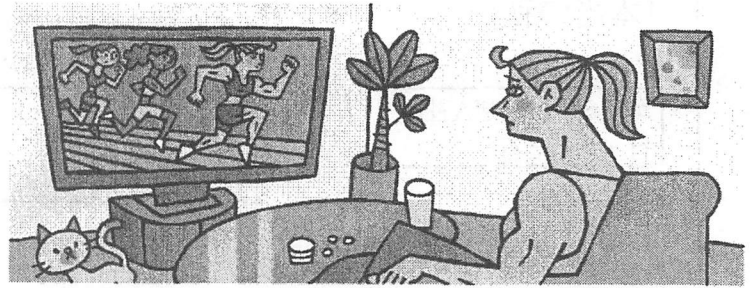
7 板書計画



【 Memo 】

2年()組()号

名前()



1 あなたがエイミーの立場なら、ドーピングのことを告白できますか。

告白できない

告白できる

自分の考え

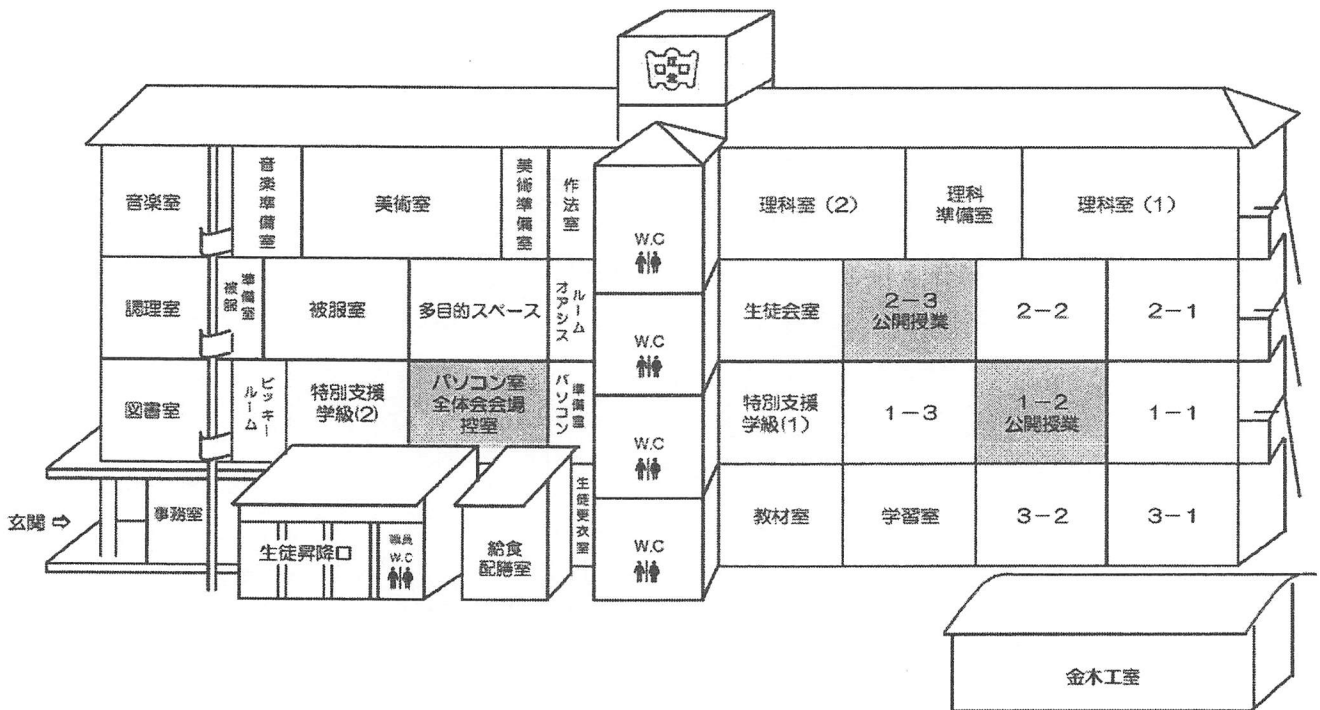
友だちの考え

2 「金メダルを失った代わりに、自分にとって大切なものを取りもどしたのね。」の大切なものとは何だろう。

自分の考え

友だちの考え

江北中学校 校舎配置図



令和元年・2年度 文部科学省・佐賀県教育委員会
「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」
道徳教育研究発表会（中間発表）

令和2年1月31日（金）
江北町立江北中学校

1 研究授業（13:25～14:15）

学級	内容項目及び主題名	教材名	授業者
2年3組	D-(22) [よりよく生きる喜び] 人間の強さ・気高さ	本当の私	重松 健太(T1) 井上 三智子(T2)
1年2組	C-(10) [遵法精神, 公德心] だれもが気持ちよく過ごせる社会を 目指して	ごみ箱をもっと増やして	小柳 久美子(T1) 森岡 伸彦(T2)

2 授業研究会（14:30～15:10）

- 挨拶
- 助言者の紹介
- 研究協議
 - ・自評
 - ・質疑応答
 - ・グループ協議

柱1 中心発問は、主題に迫るものになっていたか。

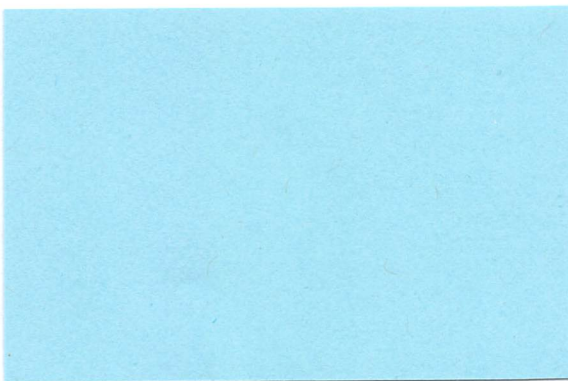
柱2 対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

- 指導助言
- 閉会

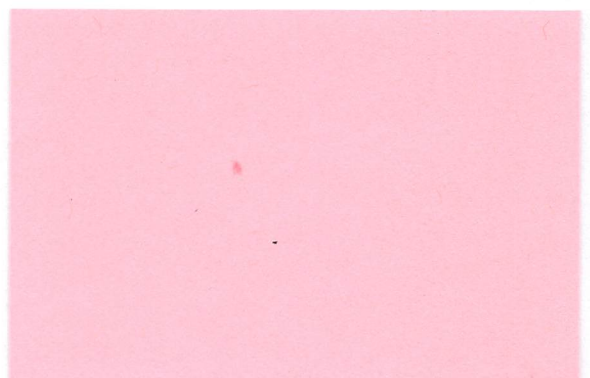
【グループ協議の進め方について】

柱1, 2にそって協議を進めていきます。時間も限られておりますので、下に添付している付箋を利用し、授業中や授業後に**良かった点**、**改善点**をご記入頂き、グループ協議の際にご紹介ください。なお、**良かった点**を青の付箋、**改善点**をピンクの付箋とさせていただきます。

良かった点（青の付箋）



改善点（ピンクの付箋）



3 自評

4 グループ協議

5 指導助言

助言者（2年生）	西部教育事務所	指導主事	大宅 正樹 先生
助言者（1年生）	教育センター	研修員	高取須賀子 先生